

ワーケーションの意義

和歌山県がワーケーションを推進する理由

「関係人口」の創出

※定住には至らないものの、特定の地域に継続的に多様な形で関わる人たち



- 県内での消費行動の増加による経済活性化
- ワーケーションをサポートするビジネスの創出
- 豊富な観光資源の魅力発信や県のブランディング
- 企業誘致や移住・定住の推進

和歌山県でのワーケーションの取組

<実績>

- 平成29年度より、全国の自治体に先駆けて、新たな働き方「ワーケーション」を提案（令和元年度までに104社910名が来県）
- ワーケーション関連ビジネスが出現



・ワーケーション用ワークスペース「WORKxation Site 南紀白浜」が全国で初めてオープン（三菱地所）



・関係人口創出を目指してワーケーションを取り入れた地方創生研修を実施（日本能率協会マネジメントセンター）

- ワーケーション自治体協議会を設立



・和歌山県と長野県が連携し全国の自治体に賛同を呼びかけ（令和元年11月設立、令和2年6月末現在89自治体）

<コロナ後>

新型コロナウイルスの影響で全国的にテレワークが普及
ポストコロナの企業のあり方や働き方に大きな変化の兆し

- ワーケーション受入企業を類型化し、和歌山ワーケーションネットワークスとしてWebサイトでPR



About Workation

ワーケーションとは
Work（仕事）+ Vacation（休暇）

ワーク（仕事）とバケーション（休暇）を組み合わせた働き方。テレワークや在宅勤務など、ITやICTを活用し、場所や時間を選ばず仕事を行う働き方。

和歌山県では、和歌山県と連携し全国の自治体に賛同を呼びかけ、ワーケーションの取組を推進しています。

和歌山県のワーケーションの特徴
Work（仕事）+ いろいろなation

和歌山県ではワーケーション（和歌山県と連携し全国の自治体に賛同を呼びかけ、ワーケーションの取組を推進しています。）と、和歌山県と連携し全国の自治体に賛同を呼びかけ、ワーケーションの取組を推進しています。



- ワーケーションファミツアーの実施
 - ・メディアや企業等を対象にワーケーション体験ツアーを開催し、「ワーケーション＝和歌山」のブランドを全国へ発信

ワーケーションの聖地＝和歌山県から、
新たな時代に即したライフスタイルのモデルを示していく

和歌山県の移住推進、地域づくりに係る取組



◎ 全国に先駆けた「田舎暮らし応援県和歌山」や「持続可能な地域」を作る取組を展開

地域によるサポート 移住者定着率は約7割

- ・全市町村に移住担当職員（ワンストップパーソン）を配置
- ・受入協議会（地域住民等）による手厚い支援

多様なツールでの情報発信

- ・東京・大阪・和歌山に常設相談窓口を設置
- ・相談会等の開催、SNS等を活用した移住者による情報発信

くらし・しごと・すまいを丸ごと支援

- ・個別現地訪問支援（首都圏からの片道交通費）
- ・公募型移住者選抜（移住希望者と地域の仕事のマッチング）
- ・移住者の起業・継業支援、空き家改修等支援

集落維持

- ・過疎集落再生・活性化支援（寄合会の活動支援）

◎ 移住・定住総合対策の新展開

① 移住相談者の75%が地方都市を、70%が就労の場を希望

② 著しい人口減少の進行で、過疎地域の集落機能が急速に低下

① 県内都市部への移住促進

わかやまキャリアチェンジ応援プロジェクト

東京及び大阪相談窓口にキャリアアドバイザーを配置
相談者の特性に応じた仕事を紹介・就職サポート

「しごと」のある「くらし」体験（お試し移住）

先輩移住者が経営するゲストハウス等に滞在
仕事と暮らしの体験を県内全域で実施

先輩移住者集団「わかやまナビゲーターズ」

快適な「わかやま暮らし」のための仲間づくりをサポート

② 過疎地域等の担い手確保

移住定住推進住宅整備

移住者向けシェアハウス等の整備支援

寄合会の活動拠点整備

寄合会活動の中心となる場所の整備を支援

地域の担い手の確保支援

（特定地域づくり事業協同組合）

人手が必要な事業者職員を派遣する組合設立支援